

1
ゴォーゴォーと荒れ狂う風と雨。私はいつもとは違う感覚を覚えながら、毛布を頭からかぶり震えていた。いつになってもおさまる気配がない。ふと、幼い日に遭遇した阪神淡路大震災の記憶がよみがえってきた。怖い。怖い。ただそれだけが頭の中で巡っている。またあの時のようになったらどうしよう。そんなことになってほしくない。そう思っていた。

しかしそんな気持ちとは裏腹に状況はいつこうに変化しない。むしろ悪化していると言った方が良いでしょう。止めることも防ぐこともできない。ただおなしく時が過ぎていくだけ。そのうち我が家の前の川が氾濫し始めた。どうしよう。どうしよう。これから想像を絶する生活が待っているとは知る由もなかった。家が浸水するとすぐに電気はすべて消え、何も言えない寒さが家の中を通り抜けた。まるで冷蔵庫の中にいるようだ。皆で毛布をかぶり水がひくまで待つしかなかった。

2日後やっと水がひいた。すぐに祖母と両親は片付けを始めた。私は手伝えるほどの力がないため、今自分に何ができるのだろうかと考えた。そこで私は皆のために、おにぎりを作りふるまうことにした。その時、おにぎりがこれほどまでおいしい物だったのかと感動した。水害さえ来なければこんな大変なことにならなかつたのに……。ふと涙があふれてきた。普通の生活を送れることがどれだけありがたく、どれだけ大切なことなのかが分かった気がした。

この2回の災害で私が感じたことは父親が体調を崩しそうななら無理しないようにと声をかけ、母が片付けに追われているなら私が母の変わりにごはんを作れば良い。年をとった祖母の顔色が悪いならやさしい言葉をかけてあげれば良い。出来ることはたくさんあると思う。こんな『やさしいところ』が大きな災害を乗り越えられる原動力になるはずである。改めて災害とどう向き合おうか考えてみたい。